

# 「オリンピック・レガシーに関する意識調査」(第3回)結果概要

---

2016年6月

**MRI** 株式会社三菱総合研究所

## 調査概要

---

- 調査対象：全国20-60 歳代の男女3,500 名
- 調査時期：2016年4 月  
（第1回意識調査は2013年12月、第2回意識調査は2015年4 月に実施）
- 調査方法：WEBアンケート調査  
（三菱総合研究所「生活者市場予測システム(mif)」を利用）
- サンプルング：東京都1000、関東6県1000、東北3県（被災地）500、その他地域1000
- 集計：地域別回答数を国勢調査人口比（全国）に基づいて重みづけ（ウェイトバック）

# 調査結果のポイント

## 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

### ～オリパラに対する関心や社会変革への期待は低下傾向続く

- 2020年東京大会に対しては約54%が関心を寄せており、また大会を契機とした社会変革へは約32%が期待を寄せているが、関心・期待ともに2013年12月時点(東京開催決定直後)と比較して低下傾向が続く。
- 特に、20代、30代での関心の低下幅が大きく、若者の関心向上に向けた普及啓発が重要と考えられる。

## 2. 「オリンピック・レガシー」について

### ～レガシーに対する認知度は微増

- オリンピック・レガシーという言葉について、「知っていた」のは約6%、「聞いたことがある」を含めて約22%。2015年4月時点よりは若干増加したが、認知度はまだ低い水準にある。
- 東京都・高齢者層での認知度が高い傾向にあり、地方および若者の認知度向上が期待される。

## 3. 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会(レガシー)

### ～「安全な社会」「地方・被災地への好影響」「大会後の持続的成長」の実現への期待が高い

- 「安全な社会」が約37%と最も高く、次いで「2021年以降も持続的に成長する社会」「競技会場の大会後の有効活用」「地方・被災地への好影響の展開」がそれぞれ約31%。
- 2015年4月時点に比べて、多くの項目で期待度が低下しているが、「競技会場の大会後の有効活用」「スポーツ・芸術文化の生活への浸透」は期待度が向上している。

## 4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(考え方・行動)

### ～意識・行動の変容は低下。若年世代の方が変容度が高い

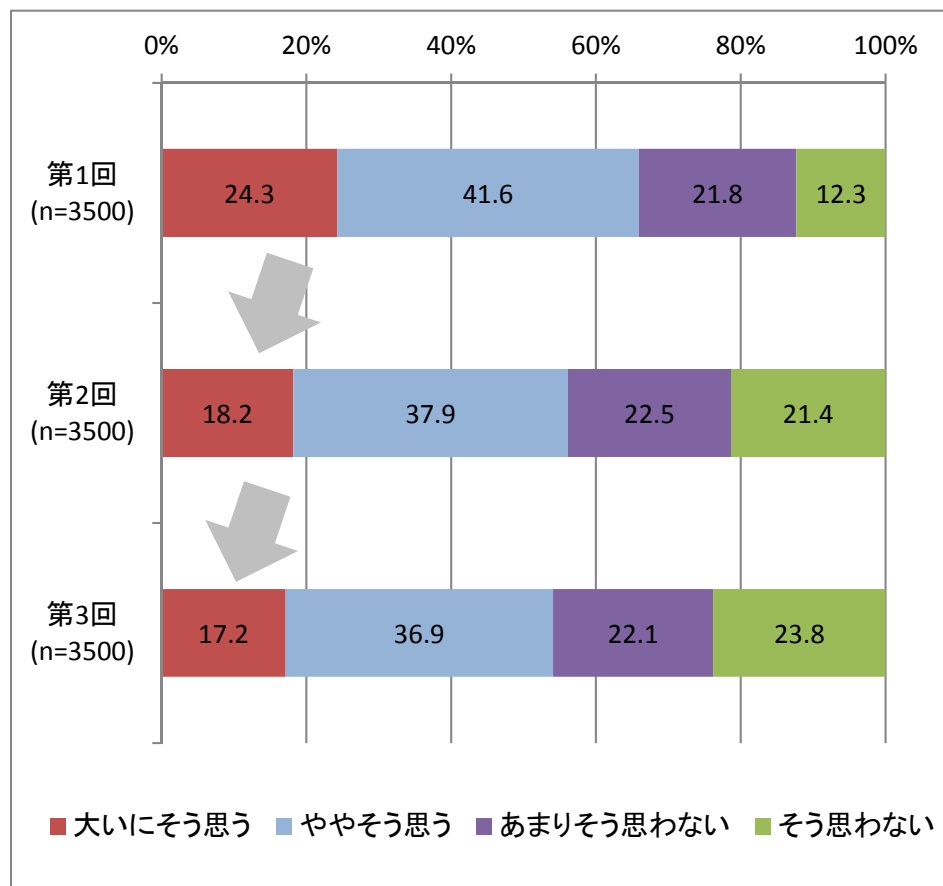
- スポーツ・運動や外国語の勉強、ボランティア等について意識・行動変容が僅かに見られるが、2013年12月時点と比較して低下傾向にある。
- 意識・行動面での変容は、20代の若年世代において高い。留学検討に影響があったとする割合も20代～30代前半の男性で高く、こうした変化に対しての若者世代の柔軟性・意欲を社会的にも活かしていくことが期待される。

# 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

## 【全体】

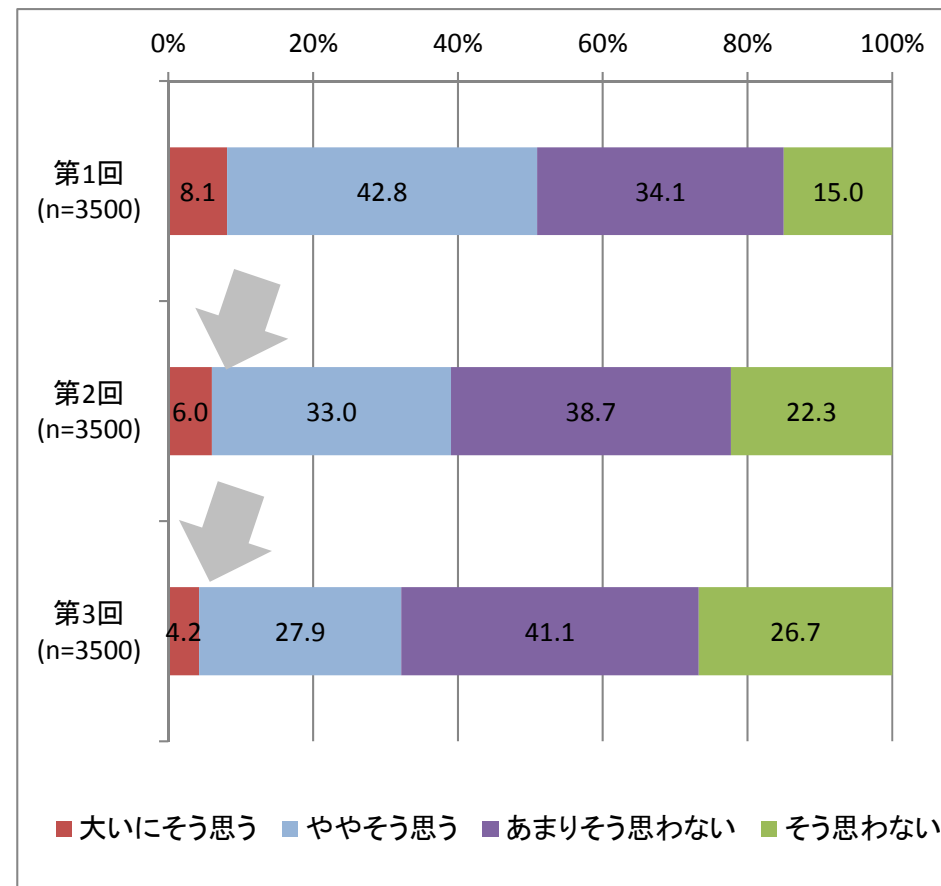
### (1) 2020年東京大会に関心がある

- 2020年東京大会への関心は、「大いにそう思う」が約17%、「ややそう思う」が約37%。
- 第1回調査時(2013年12月)以降、関心は低下傾向にある。



### (2) 2020年東京大会をきっかけとして社会が良くなる

- 2020年東京大会を契機とした社会変革への期待は、「大いにそう思う」が約4%、「ややそう思う」が約28%。
- 第1回調査時(2013年12月)以降、期待は低下傾向にある。



# 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

## 【設問別クロス】

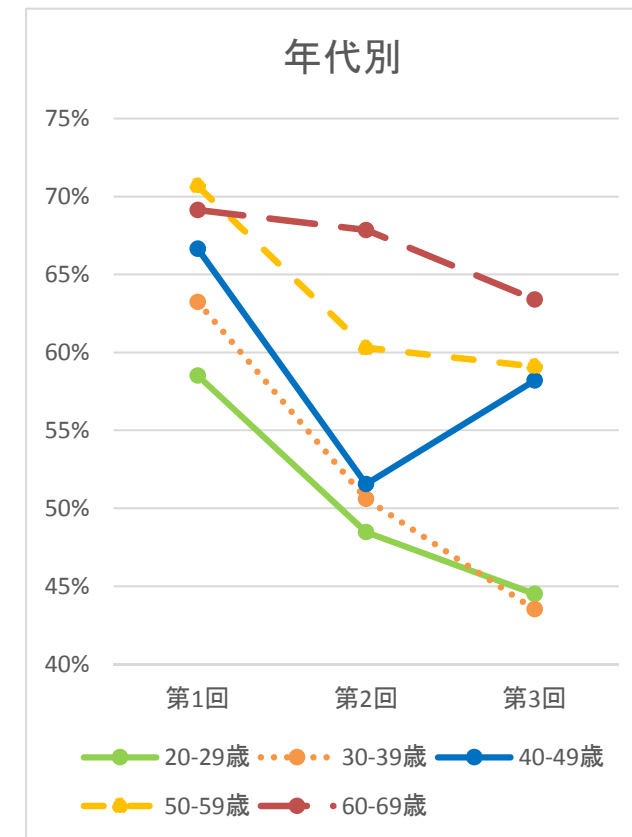
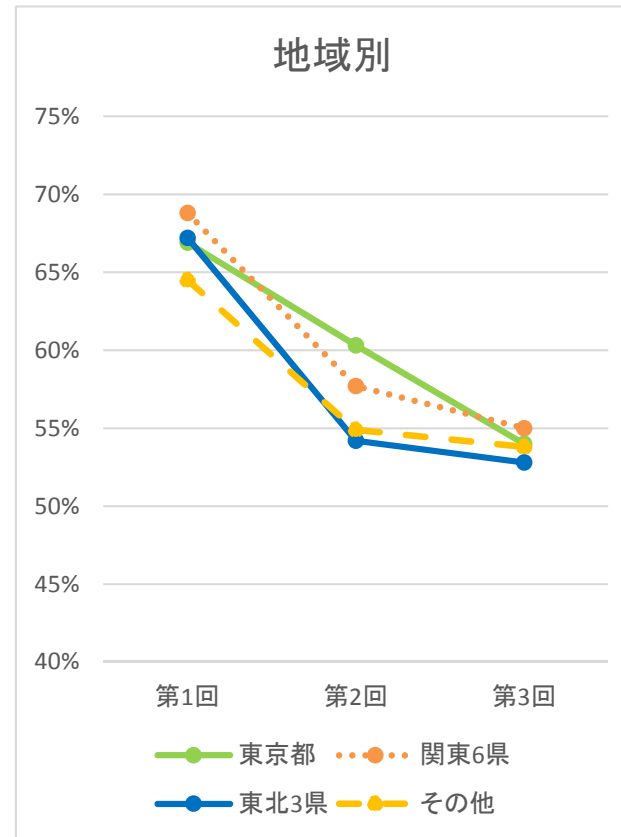
### (1) 2020年東京大会に関心がある

#### 地域別

- 2020年東京大会への関心は、全ての地域で低下傾向にある。
- 第3回調査(2016年4月)においては、地域による関心の差はあまりみられない。

#### 年代別

- 年代別にみても、多くの年代で関心の低下がみられる。
- 特に、20代、30代での関心の低下幅が大きく、40代以上との関心の差が拡大している。



※「大いにそう思う」+「ややそう思う」の合計値

# 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

## 【設問別クロス】

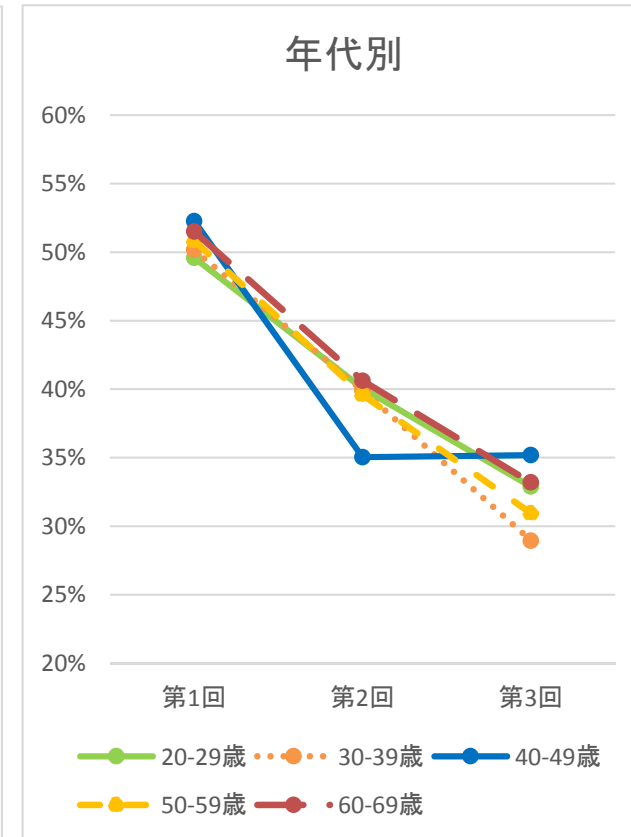
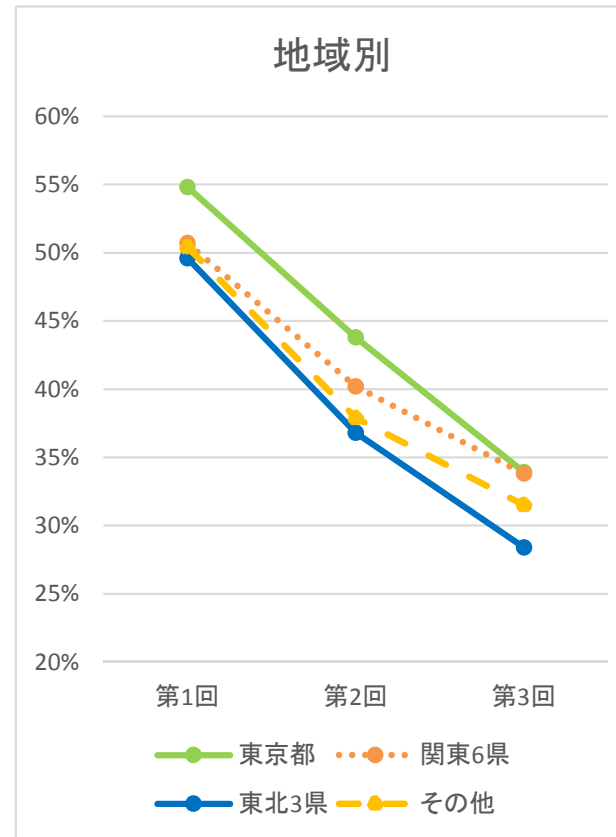
### (2) 2020年東京大会をきっかけとして社会が良くなる

#### 地域別

- 2020年東京大会を契機とした社会変革への期待は、全ての地域で低下傾向にある。

#### 年代別

- 年代別にみても、多くの年代で期待の低下がみられる。



※「大いにそう思う」+「ややそう思う」の合計値

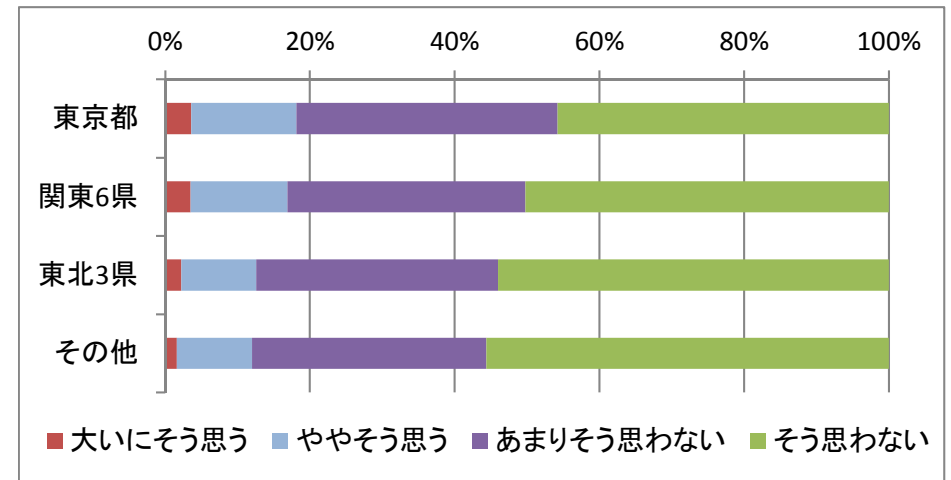
# 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

(3)東京オリンピック・パラリンピック関連のボランティアスタッフとして大会に参加したい

## 【設問別クロス】

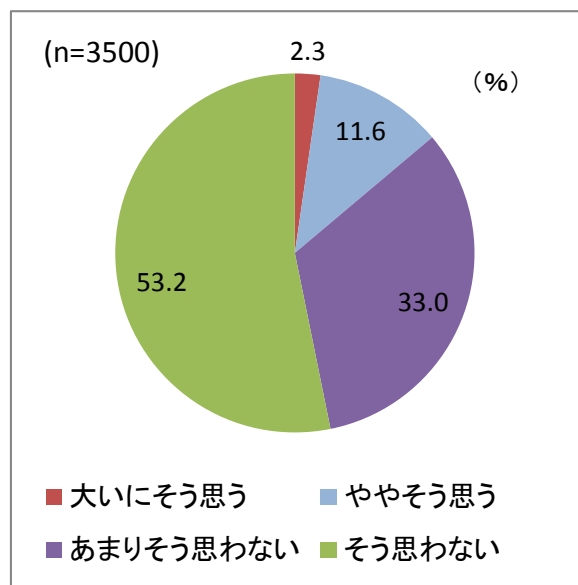
### 地域別

- 地域別には、東京都、関東6県で参加意向の割合が高い。



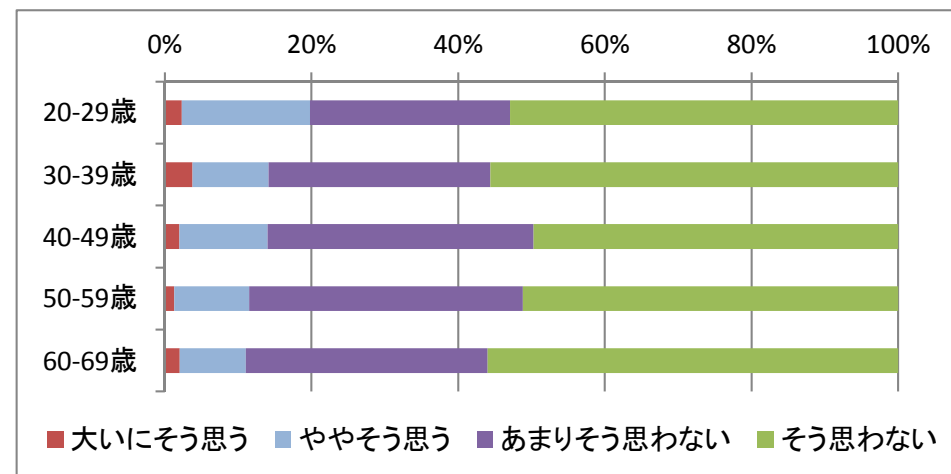
## 【全体】

- ボランティアとして東京大会に参加したい割合は「大いにそう思う」が約2%、「ややそう思う」が約12%である。



### 年代別

- 年代別に見ると、20代で参加意向の割合が高い。



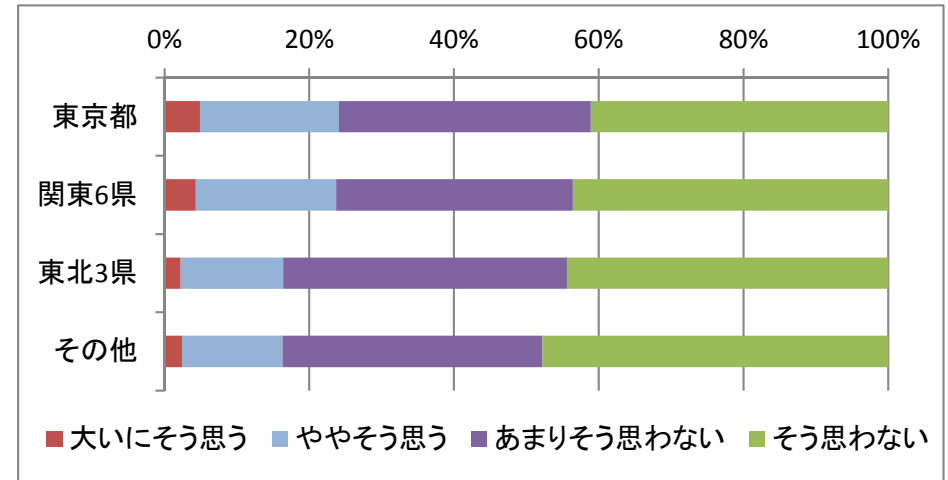
# 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

(4)東京大会までの4年間に開催される予定の大会関連の文化イベント(音楽、美術、演劇、映画、食、歴史、伝統芸能など)に参加したい

## 【設問別クロス】

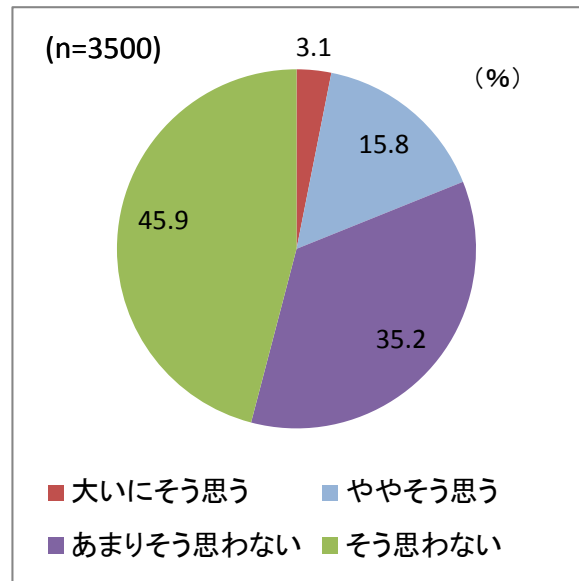
### 地域別

- 地域別には、東京都、関東6県で参加意向の割合が高い。



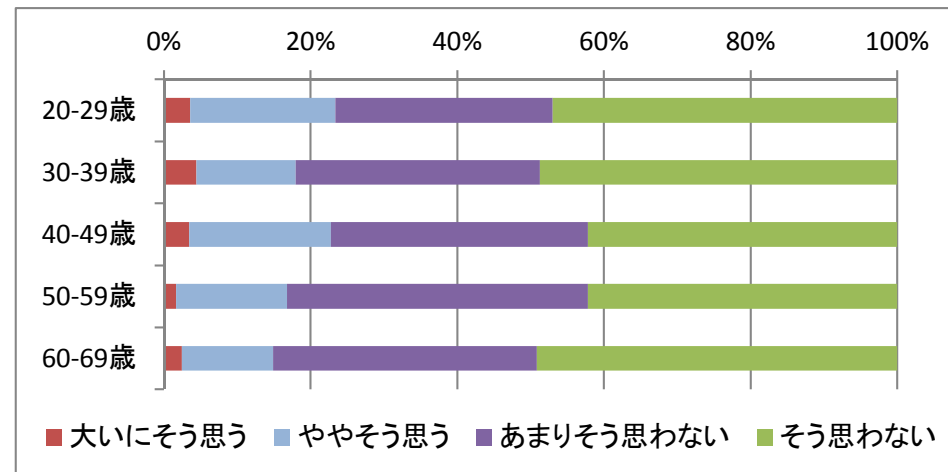
## 【全体】

- 文化イベントに参加したい割合は、「大いにそう思う」が約3%、「ややそう思う」が約16%である。



### 年代別

- 年代別に見ると、20代、40代で参加意向の割合が高い。





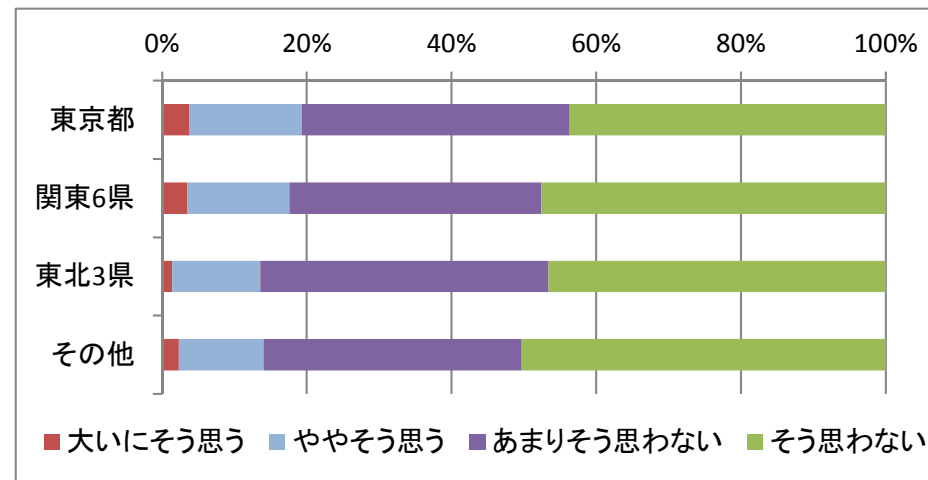
# 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

(5)大会に向けた調整のための合宿で、地元を訪れる外国人選手との交流イベントに参加したい

## 【設問別クロス】

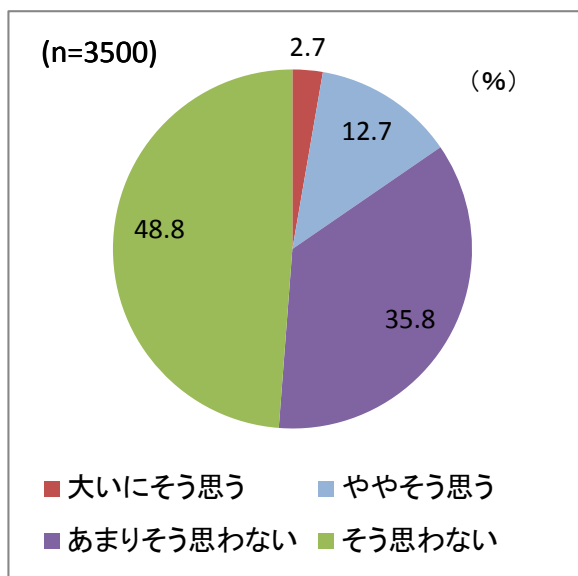
### 地域別

- 地域別には、東京都、関東6県で参加意向の割合が高い。



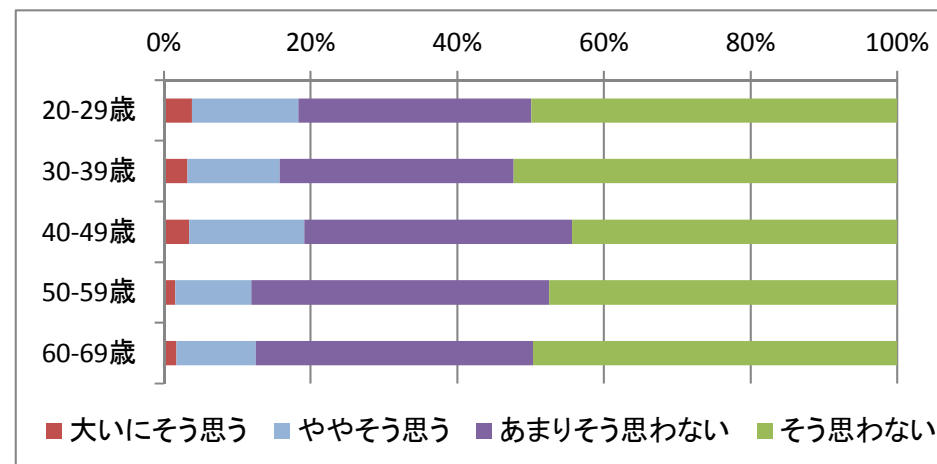
## 【全体】

- 外国人選手との交流イベントに参加したい割合は「大いにそう思う」が約3%、「ややそう思う」が約13%である。



### 年代別

- 年代別に見ると、20代、40代で参加意向の割合が高い。



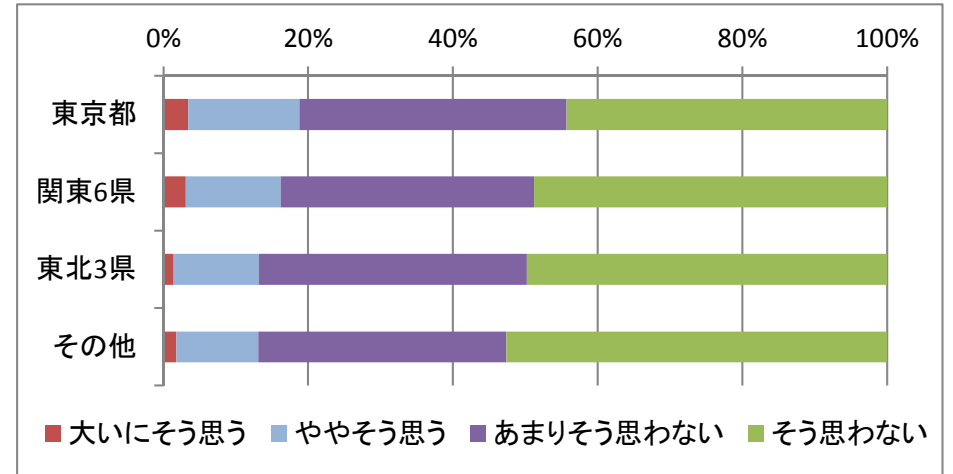
# 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会への関心

(6) ボランティアや文化イベント、外国人選手交流イベントなど、大会に関連するプログラムの企画に加わりたい

## 【設問別クロス】

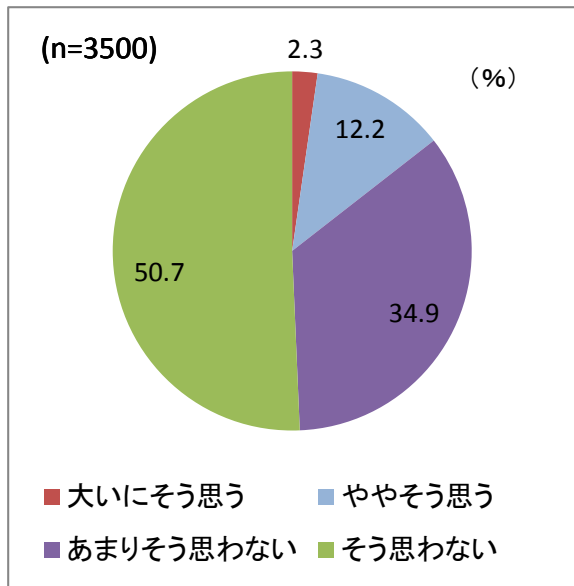
### 地域別

- 地域別には、東京都、関東6県で参加意向の割合が高い。



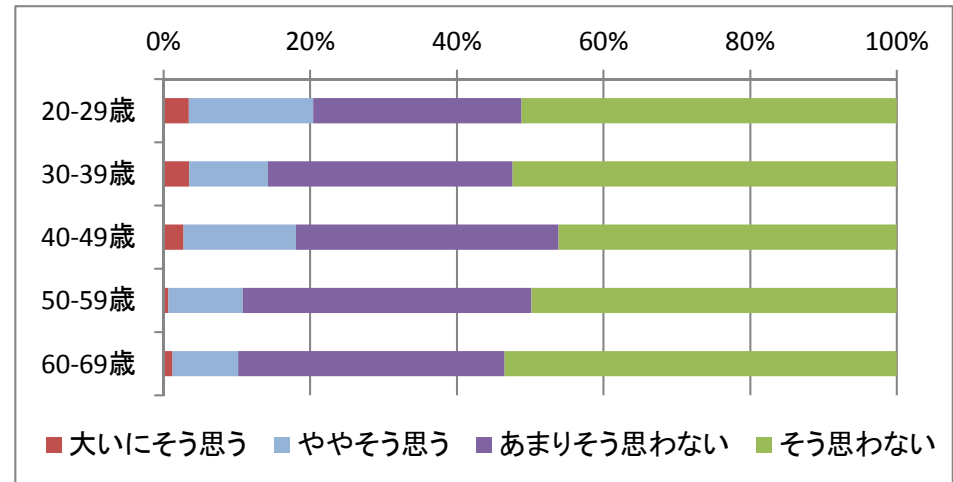
## 【全体】

- 大会に関連するプログラムの企画に加わりたい割合は「大いにそう思う」が約2%、「ややそう思う」が約12%である。



### 年代別

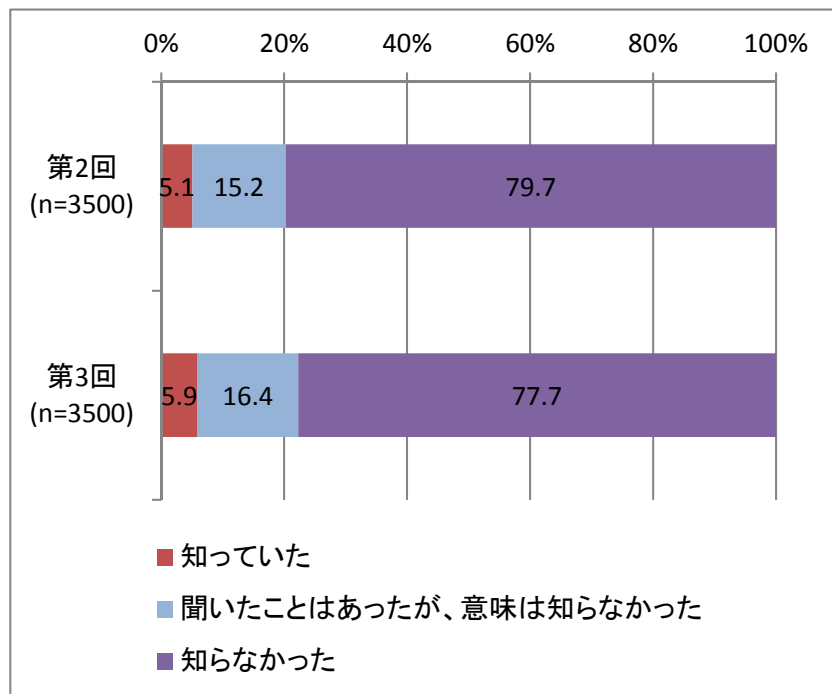
- 年代別に見ると、20代、40代で参加意向の割合が高い。



## 2. 「オリンピック・レガシー」について

### 【全体】

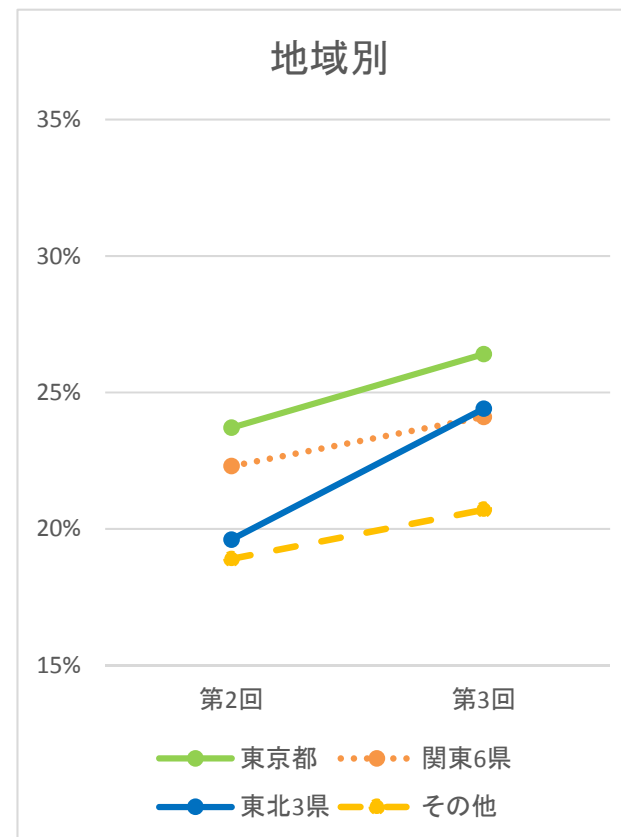
- オリンピック・レガシーという言葉について、(意味も含めて)「知っていた」のは約6%、「聞いたことがある」は約16%と、約22%の認知が見られる。
- オリンピック・レガシーの認知度は、第2回調査時(2015年4月)よりも若干向上。



### 【設問別クロス】

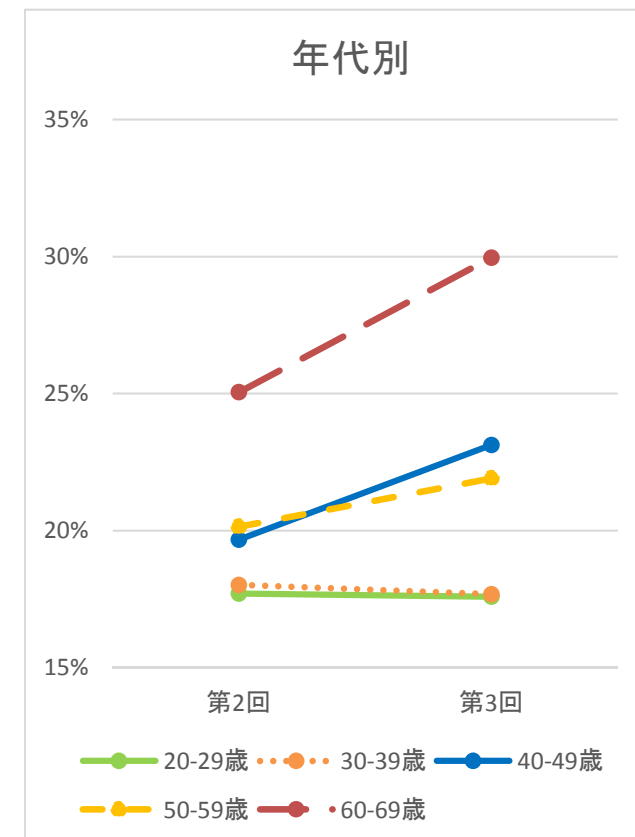
#### 地域別

- レガシーの認知度は全ての地域で上昇している。東京都の認知度が最も高く、約26%の認知となっている。



#### 年代別

- レガシーの認知度は40代以上で上昇している。他方、30代以下は若干の低下が見られる。

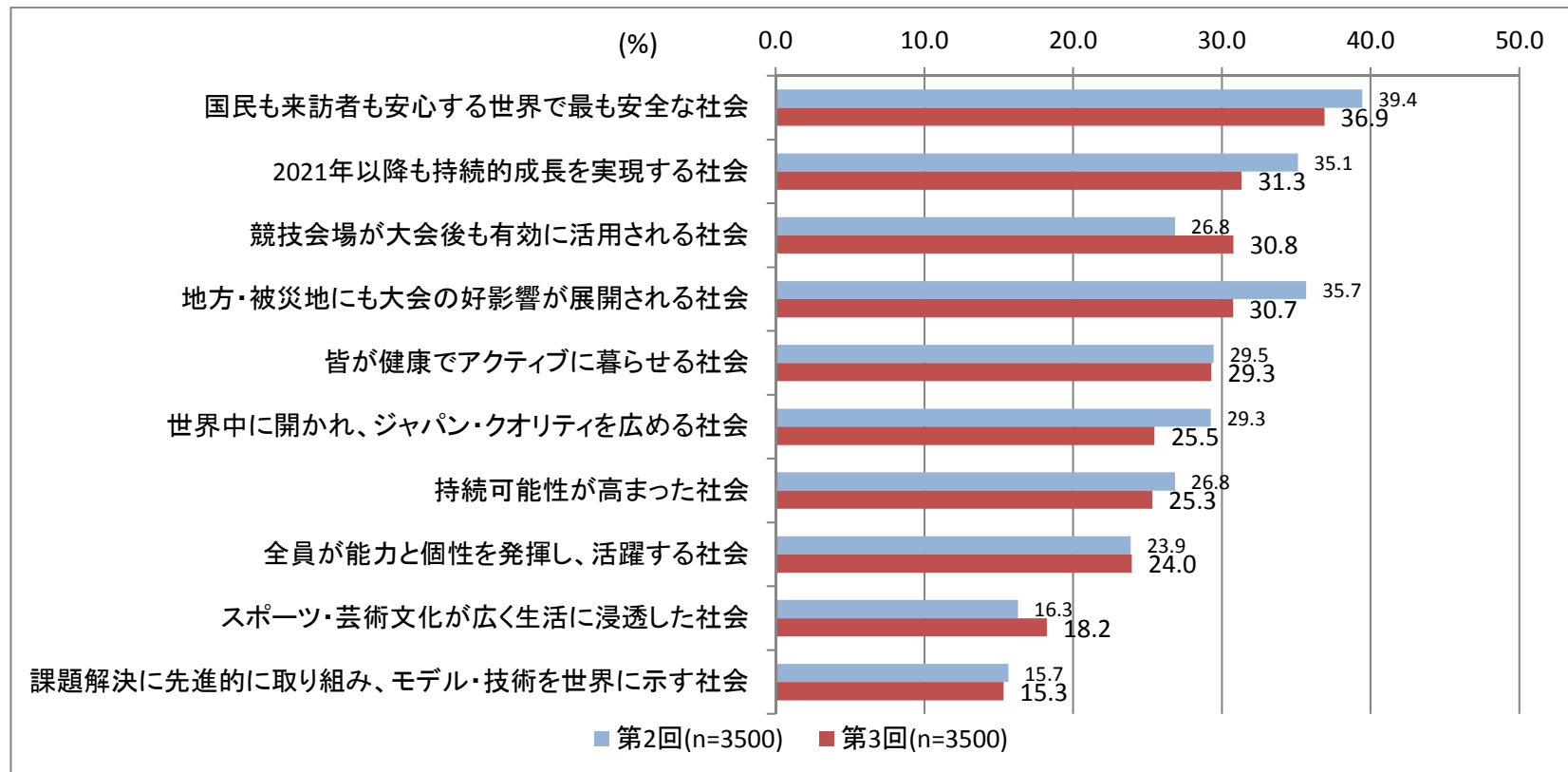


※「知っていた」+「聞いたことはあったが、意味は知らなかった」の合計値

### 3. 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会(レガシー)

#### 【全体】

- 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会(レガシー)への期待としては、「安全な社会」が約37%と最も高く、次いで「2021年以降も持続的に成長する社会」「競技会場の大会後の有効活用」「地方・被災地への好影響の展開」がそれぞれ約31%となっている。
- ただし、多くの項目で、第2回調査と比べて期待度が低下している。
- 期待度が1ポイント以上上昇しているのは、「競技会場の大会後の有効活用」「スポーツ・芸術文化の生活への浸透」となっている。



※第3回の値の大きい順に表示。

### 3. 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会(レガシー)

#### 【設問別クロス】

##### 地域別

- 東京都はほとんどの項目で実現してほしい割合が低下している。
- それ以外の地域では、共通して、「競技会場が大会後も有効に活用される社会」が高まっている。
- 関東6県、その他では、「スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会」が高まっている。

#### 東京都

	第2回	第3回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	41.0	38.4	-2.6
2021年以降も持続的成長を実現する社会	38.1	33.0	-5.1
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	29.8	31.7	1.9
競技会場が大会後も有効に活用される社会	30.6	27.7	-2.9
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	32.7	27.6	-5.1
持続可能性が高まった社会	29.0	24.9	-4.1
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	29.8	24.6	-5.2
全員が能力と個性を発揮し、活躍する社会	25.9	24.4	-1.5
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	20.1	17.5	-2.6
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	18.0	14.8	-3.2

#### 関東6県

	第2回	第3回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	39.6	38.7	-0.9
2021年以降も持続的成長を実現する社会	37.3	32.2	-5.1
競技会場が大会後も有効に活用される社会	28.0	30.8	2.8
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	30.6	29.5	-1.1
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	31.7	28.1	-3.6
持続可能性が高まった社会	28.7	25.7	-3.0
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	30.2	24.2	-6.0
全員が能力と個性を発揮し、活躍する社会	24.8	23.2	-1.6
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	16.6	20.1	3.5
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	16.0	13.9	-2.1

#### 東北3県

	第2回	第3回	変化
競技会場が大会後も有効に活用される社会	30.0	32.4	2.4
全員が能力と個性を発揮し、活躍する社会	21.8	23.4	1.6
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	28.8	29.0	0.2
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	36.8	35.8	-1.0
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	12.8	11.8	-1.0
2021年以降も持続的成長を実現する社会	27.0	25.6	-1.4
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	20.4	17.4	-3.0
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	29.2	25.8	-3.4
持続可能性が高まった社会	27.4	23.2	-4.2
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	52.0	44.0	-8.0

#### その他

	第2回	第3回	変化
競技会場が大会後も有効に活用される社会	25.5	31.2	5.7
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	15.2	17.7	2.5
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	15.3	16.2	0.9
全員が能力と個性を発揮し、活躍する社会	23.3	24.2	0.9
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	29.0	28.8	-0.2
持続可能性が高まった社会	25.7	25.4	-0.3
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	28.8	26.1	-2.7
2021年以降も持続的成長を実現する社会	34.3	31.1	-3.2
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	39.3	36.0	-3.3
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	36.6	31.4	-5.2

※いずれも、第3回の値の大きい順に表示。

変化は第3回と第2回の値の差。2ポイント以上上昇しているものをブルー、2ポイント以上低下しているものをピンクのあみかけをしている。

### 3. 2020年東京大会を契機として実現してほしい社会(レガシー)

#### 【設問別クロス】

##### 年代別

- 「競技会場が大会後も有効に活用される社会」については、20代、50代、60代で高まっている。
- そのほか、20代では「課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会」、40代・60代では「スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会」が高まっている。

#### 20代

	第2回	第3回	変化
2021年以降も持続的成長を実現する社会	33.9	30.2	-3.7
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	27.5	26.6	-0.9
競技会場が大会後も有効に活用される社会	22.8	26.3	3.6
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	34.0	26.1	-7.9
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	25.0	22.6	-2.4
持続可能性が高まった社会	23.8	21.9	-1.9
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	21.2	21.7	0.5
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	23.6	21.2	-2.4
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	13.1	17.4	4.4
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	17.1	14.3	-2.8

#### 30代

	第2回	第3回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	34.3	31.2	-3.2
2021年以降も持続的成長を実現する社会	36.6	30.5	-6.1
競技会場が大会後も有効に活用される社会	25.8	27.2	1.4
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	31.6	24.6	-6.9
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	26.2	24.6	-1.6
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	22.6	20.2	-2.4
持続可能性が高まった社会	23.3	19.9	-3.4
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	17.4	18.8	1.4
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	24.1	18.8	-5.3
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	13.1	12.6	-0.6

#### 40代

	第2回	第3回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	36.5	36.6	0.1
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	33.2	29.7	-3.4
2021年以降も持続的成長を実現する社会	34.8	29.6	-5.3
競技会場が大会後も有効に活用される社会	27.9	28.6	0.6
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	26.9	27.7	0.8
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	21.9	27.3	5.4
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	25.8	27.1	1.2
持続可能性が高まった社会	26.9	26.9	0.0
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	15.8	18.8	3.0
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	14.7	16.0	1.3

#### 50代

	第2回	第3回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	42.2	40.2	-1.9
競技会場が大会後も有効に活用される社会	24.8	33.3	8.5
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	37.5	32.7	-4.8
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	30.3	30.8	0.5
2021年以降も持続的成長を実現する社会	33.7	29.8	-3.9
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	25.8	26.0	0.2
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	30.3	25.0	-5.4
持続可能性が高まった社会	25.3	24.5	-0.7
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	16.0	16.2	0.2
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	14.1	14.5	0.4

#### 60代

	第2回	第3回	変化
国民も来訪者も安心する世界で最も安全な社会	48.9	48.0	-1.0
皆が健康でアクティブに暮らせる社会	38.7	40.2	1.4
地方・被災地にも大会の好影響が展開される社会	46.6	39.1	-7.4
競技会場が大会後も有効に活用される社会	31.8	37.5	5.7
2021年以降も持続的成長を実現する社会	36.1	36.0	-0.1
世界中に開かれ、ジャパン・クオリティを広める社会	39.7	33.2	-6.5
持続可能性が高まった社会	34.0	32.5	-1.5
全員が能力と個性を發揮し、活躍する社会	27.3	24.4	-2.8
スポーツ・芸術文化が広く生活に浸透した社会	15.2	21.9	6.6
課題解決に先進的に取り組み、モデル・技術を世界に示す社会	22.4	16.6	-5.8

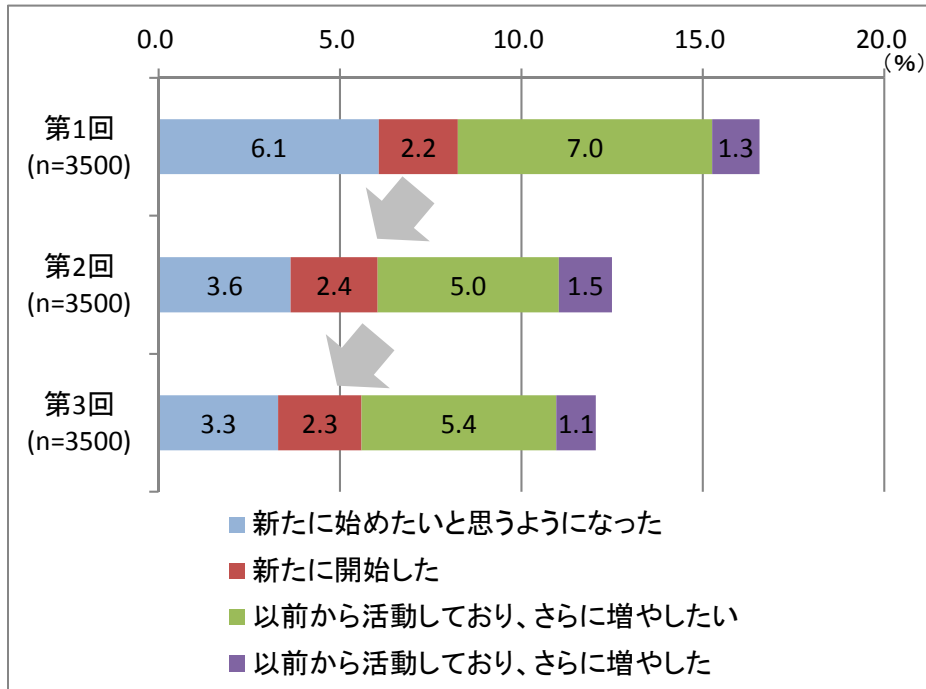
※いずれも、第3回の値の大きい順に表示。

変化は第3回と第2回の値の差。2ポイント以上上昇しているものをブルー、2ポイント以上低下しているものをピンクのあみかけをしている。

## 4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(スポーツ・運動)

### 【全体】

- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が最も大きかったのがスポーツ・運動である。
- なお、その割合は低下傾向にある。特に、活動をしたいという意向が第1回調査時(2013年12月)の計13.1%から計8.7%へと2.4ポイント低下している。



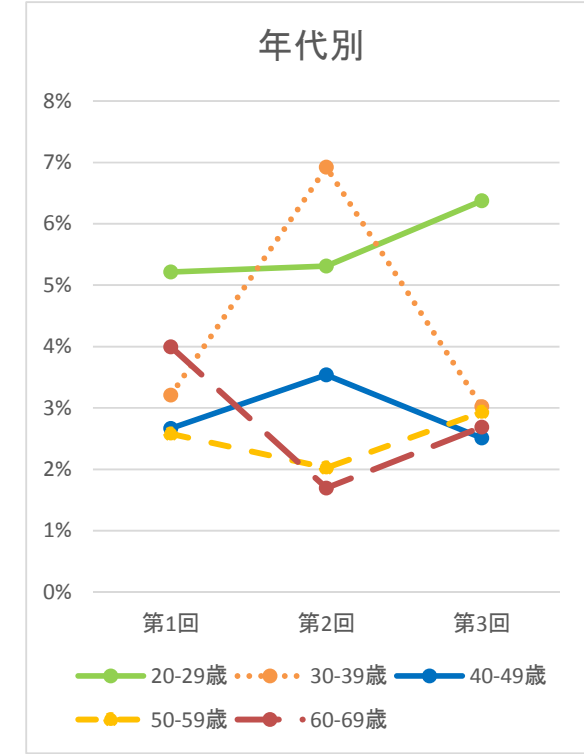
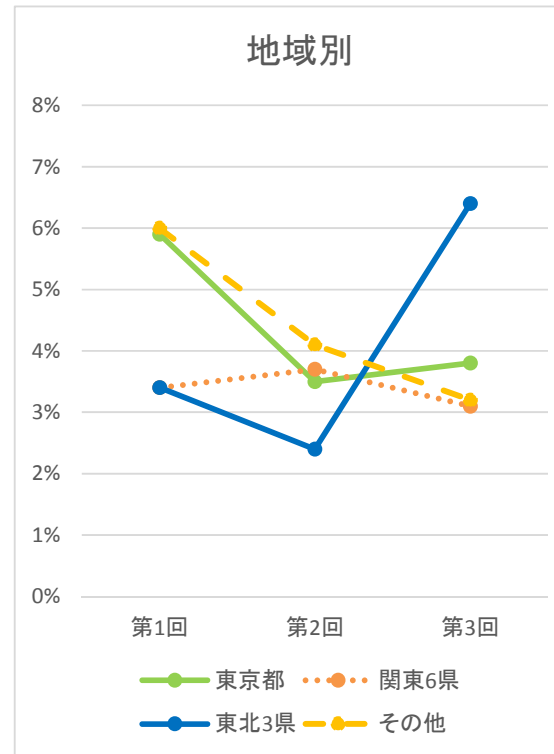
### 【設問別クロス】

#### 地域別

- 行動変容は、東北3県で増えている。

#### 年代別

- 行動変容が大きいのは20代となっている。

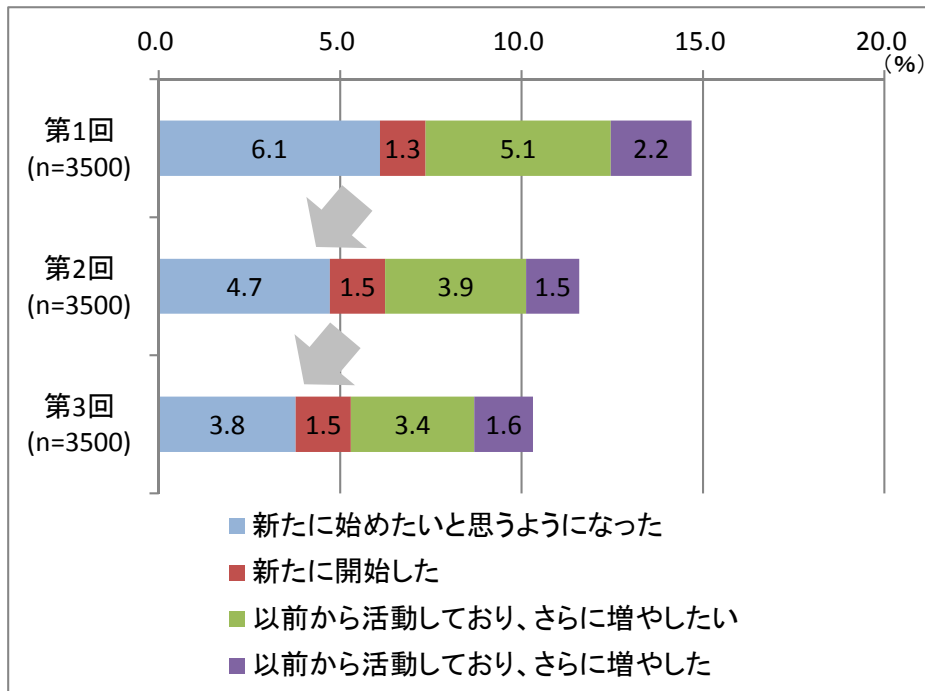


注: 「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

## 4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(外国語の勉強)

### 【全体】

- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が2番目に大きかったのが外国語の勉強である。
- なお、その割合は低下傾向にある。特に、活動をしたいという意向が第1回調査時(2013年12月)の計11.2%から計7.2%へと4ポイント低下している。

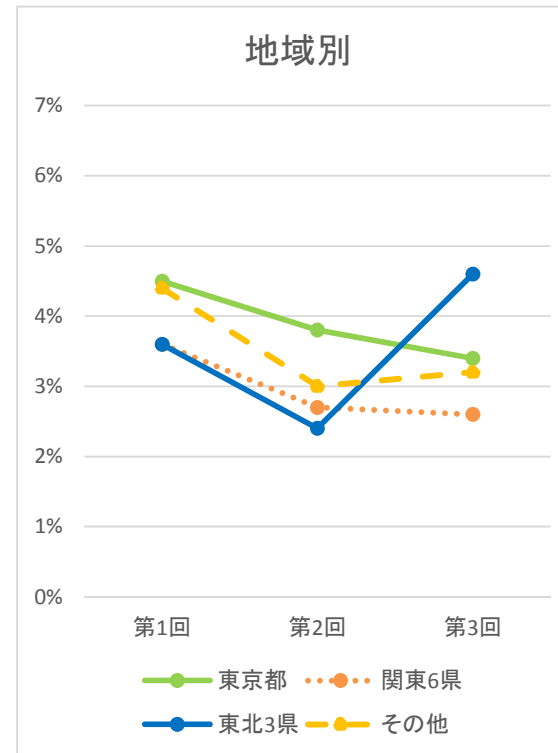


注:「特に変化はない」を除いている

### 【設問別クロス】

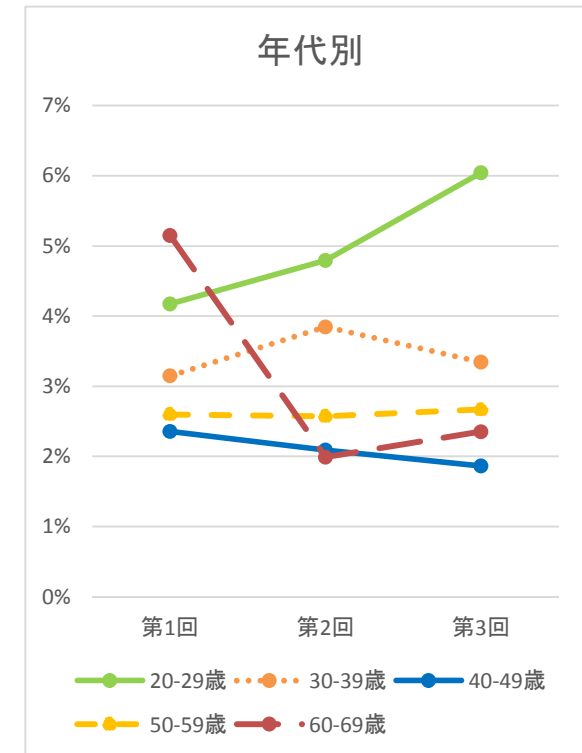
#### 地域別

- 東北3県で行動変容が増加している。



#### 年代別

- 年代別にみると、20代での行動変容の増加が目立つ。



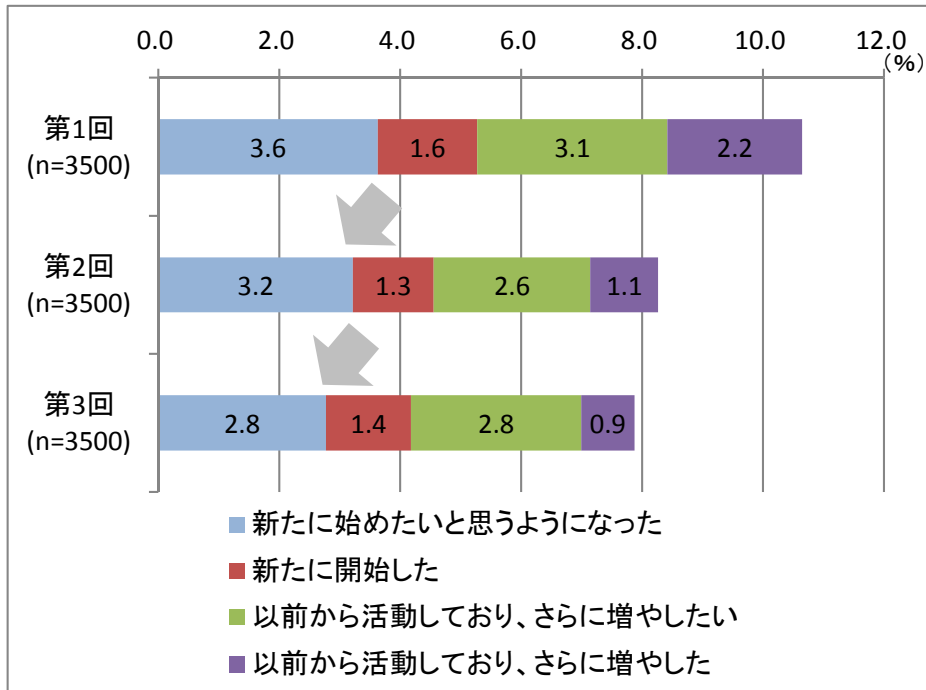
注:「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値



## 4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(ボランティア)

### 【全体】

- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が3番目に大きかったのがボランティアである。
- なお、その割合は低下傾向にある。活動をしたという意向が第1回調査時(2013年12月)から1.1ポイント減、実際に活動をしたという行動変容が1.5ポイント減少している。

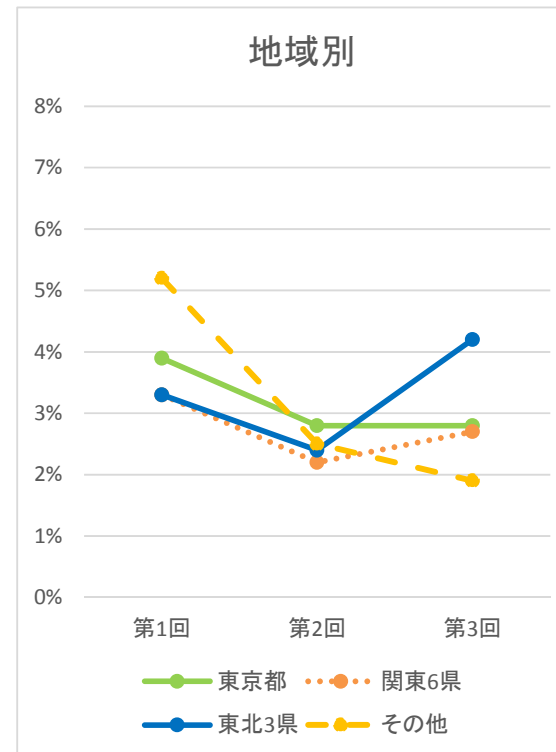


注:「特に変化はない」を除いている

### 【設問別クロス】

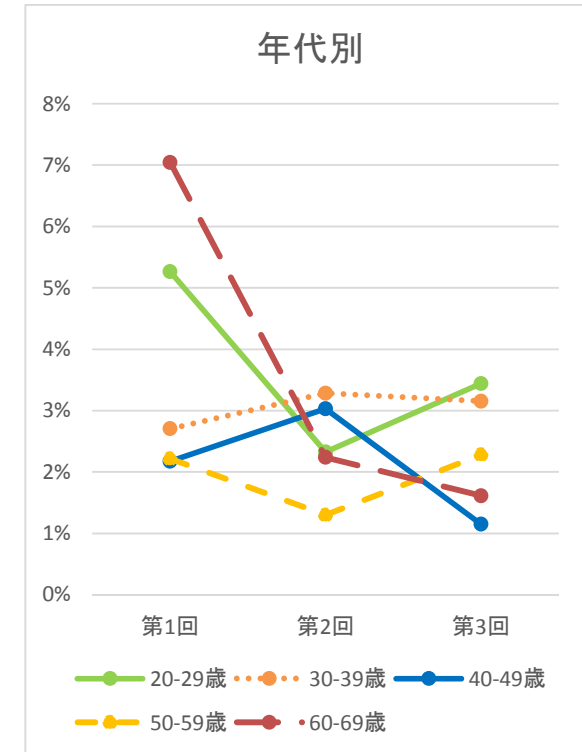
#### 地域別

- 東北3県で行動変容が増加している。



#### 年代別

- 年代別にみると、60代での行動変容の低下が大きい。

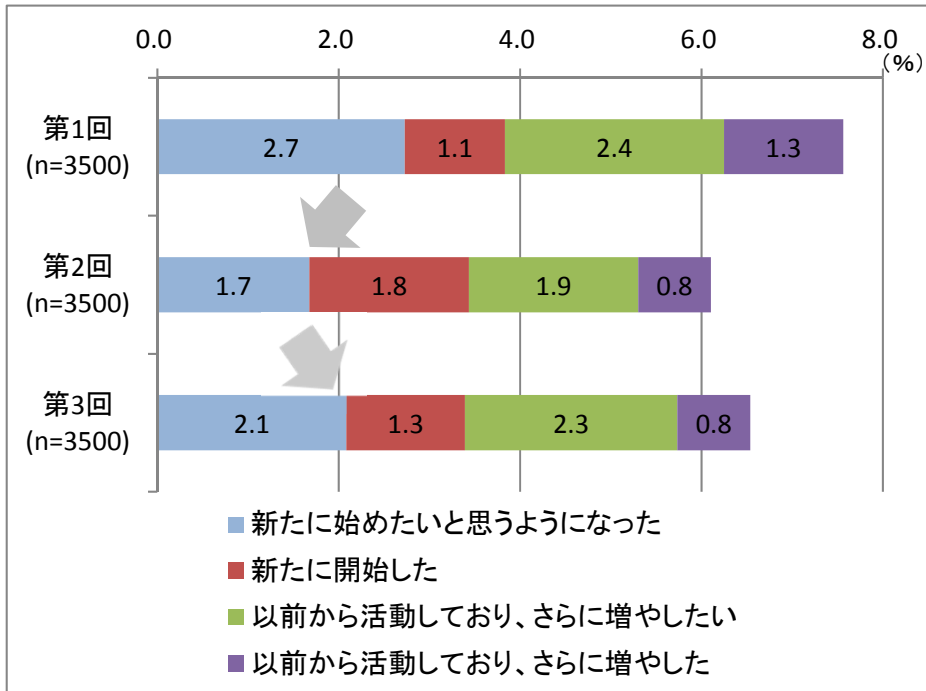


注:「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

## 4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(地域づくり活動)

### 【全体】

- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が4番目に大きかったのが地域づくり活動である。
- 活動をしたという意向が第1回調査時(2013年12月)から0.7ポイント減、実際に活動をしたという行動変容が0.3ポイント減少している。

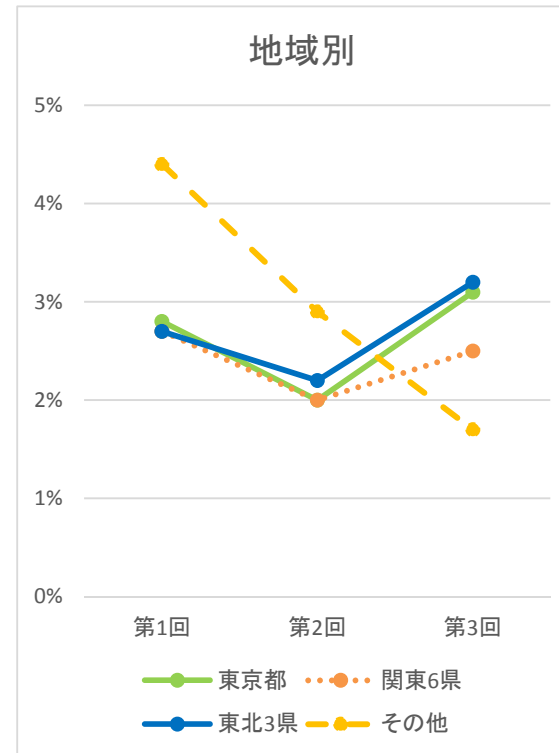


注:「特に変化はない」を除いている

### 【設問別クロス】

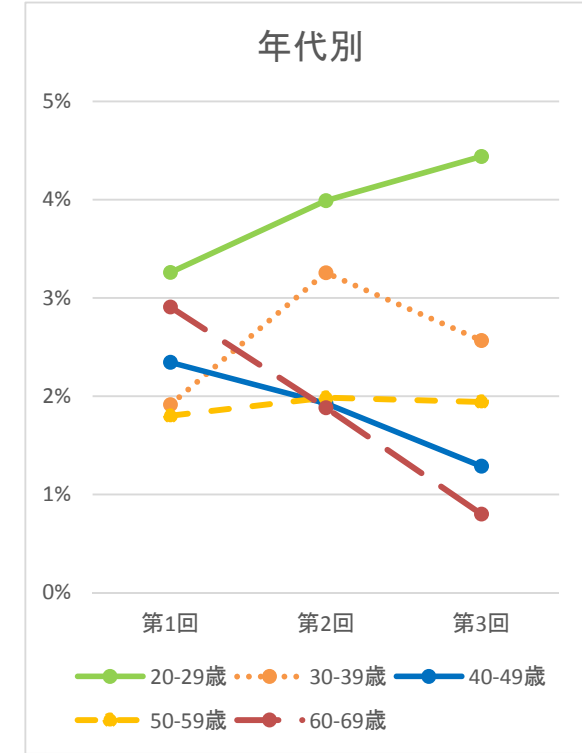
#### 地域別

- 東京都、東北3県で行動変容が増加している。



#### 年代別

- 行動変容が大きいのは20代となっている。

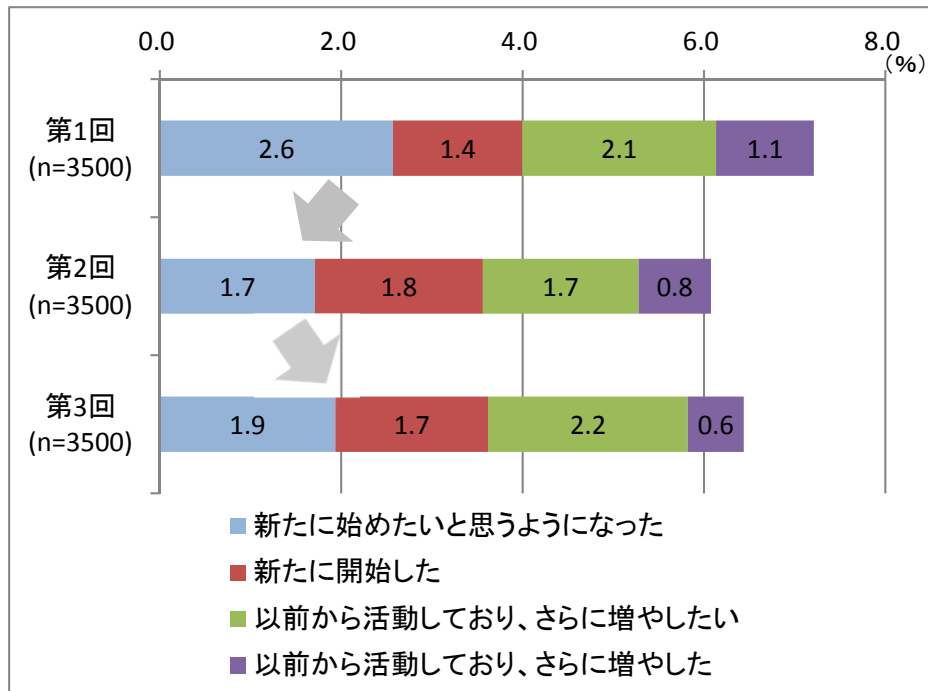


注:「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

## 4. 2020年東京大会開催決定後の自身の変化(ビジネス面)

### 【全体】

- 「新たな活動を開始した」「既存活動をさらに増やした」という行動変容の割合、「新たな活動を始めたい」「既存活動をさらに増やしたい」という意向がある人の割合が5番目に大きかったのがビジネス面である。
- 活動をしたという意向が第1回調査時(2013年12月)から0.6ポイント減、実際に活動をしたという行動変容が0.2ポイント減少している。

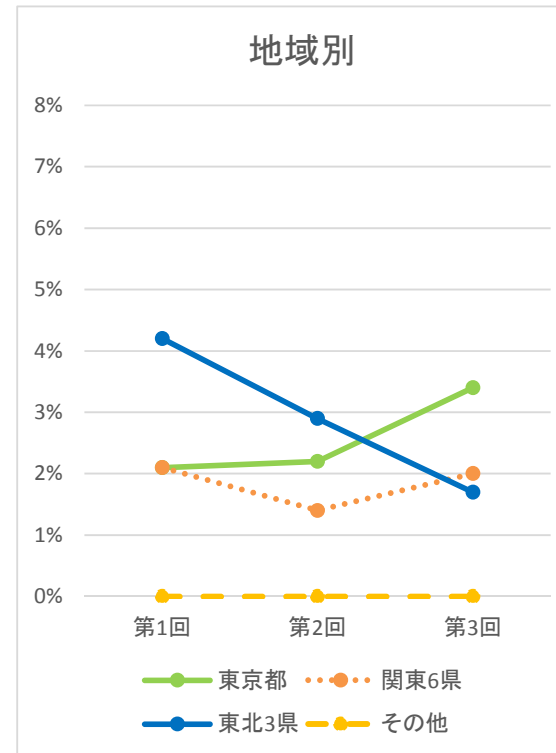


注:「特に変化はない」を除いている

### 【設問別クロス】

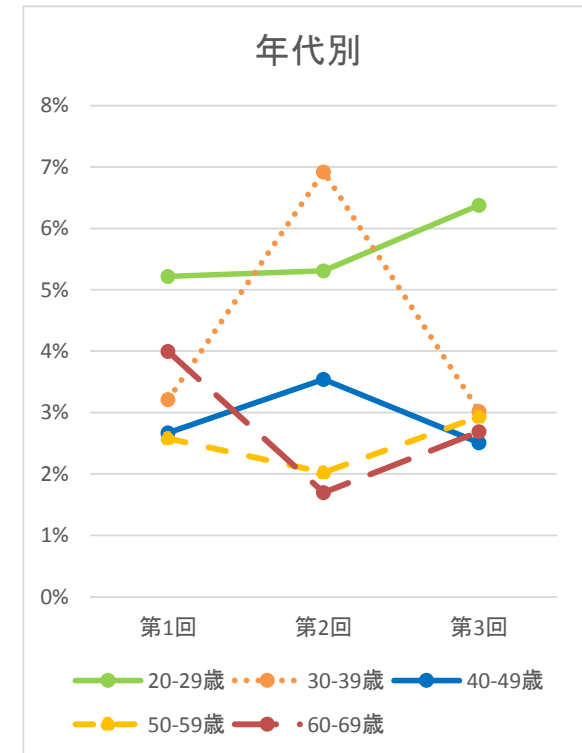
#### 地域別

- 東京都で、行動変容がやや増加している。
- 他方、東北においては、行動変容の低下が続いている。



#### 年代別

- 行動変容が大きいのは20代となっている。

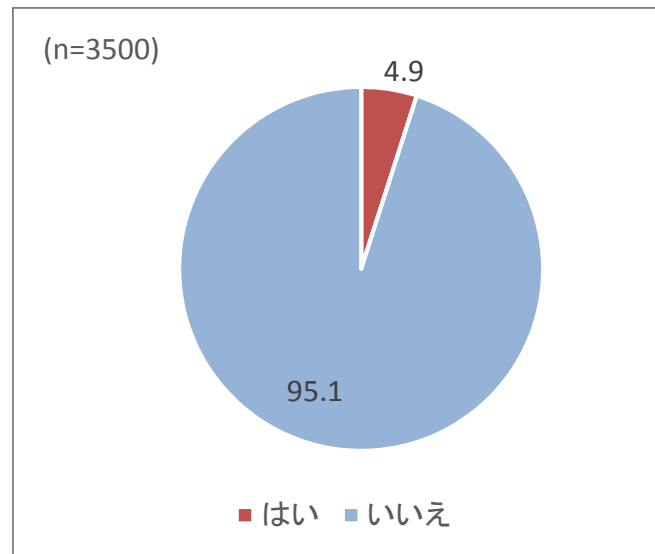


注:「新たに開始した」+「以前から活動しており、さらに増やした」の合計値

## 5. 2020年東京大会の留学検討への影響

### 【全体】

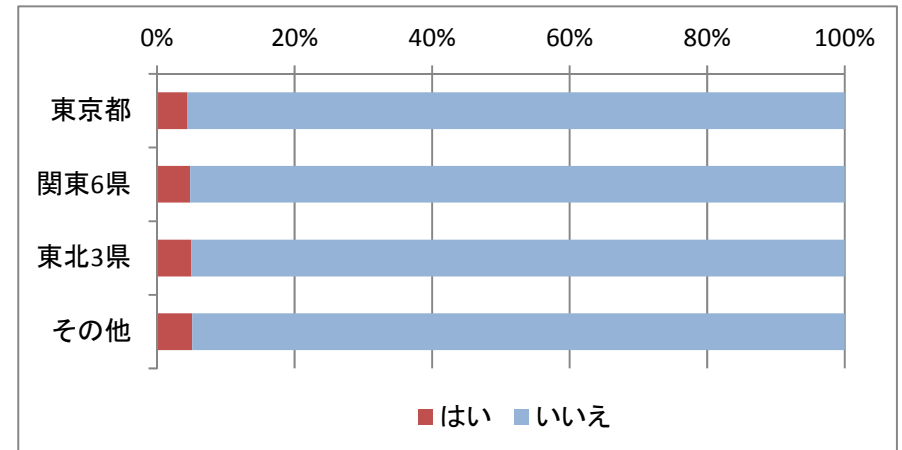
- 「オリンピック・パラリンピックが2020年に東京で開催されることが決まった(2013年9月)ことは、あなた自身が「留学」を考える(又は行う)きっかけになりましたか」という問いに対して、「はい」と答えた割合は約5%である。



### 【設問別クロス】

#### 地域別

- 地域別にはあまり差が見られない。



#### 年代別

- 年代別に見ると、20代、30代で留学を検討するきっかけとなったとする割合が相対的に高い。
- 男女別にみると、男性の20-24歳は8.9%、25-29歳は9.8%、30-34歳は8.2%と、より留学検討者が多くなっている。

